

# 結核について

結核は、昭和 25 年までは日本の死亡原因の第 1 位でした。その後、適切な治療法が開発され患者数は減少していますが、現在でも全国で毎年約 2 万人、大阪府では 2,300 人以上（全国で最多）の人が、新たに結核を発病しています。結核は肺以外にも、体の色々な臓器に病気を作ります。集団感染を起こす場合もあるので、早期発見・早期治療が重要です。

## <結核はどんな病気？>

結核は、吸い込んだ「結核菌」という細菌が体内に入り、増えることによって起こる病気です。感染しても必ず発病するわけではありません。健康な人の場合、結核に対する免疫を作って対抗し、発病しないように抑え込みます。このとき、結核菌は決して死滅したわけではなく、冬眠のように肺の奥で生き続けます。そして、免疫力が弱っている時などに活動を始め 2 年以内に発病することが多いと言われています。感染後に発病する人の割合は 10%程度、その内の 60%が 2 年以内に発病しています。時には、10 年、20 年後に発病する場合があります。

結核は肺以外の臓器にも病気を作るのが特徴で、約 80%は肺結核ですが、リンパ節や腎臓、骨、脳などにも病巣を作ります。脳を包んでいる髄膜に菌が及ぶと、結核性髄膜炎を発病して約 3 分の 1 が死亡、治っても半数近くに脳に重い後遺症を残します。

### 初期は風邪のような症状です！

- せき
- たん
- 発熱
- 疲れやすい
- 寝汗



**咳等の症状が2週間以上続くなら、軽く考えずに早急に医療機関を受診してください。**

受診の時は必ずマスクを着用して行きましょう！

## <どんな風に感染するの？>

結核を発病した人の、咳やくしゃみによってばらまかれた結核菌を吸い込むことによって感染します。（空気感染、飛沫感染）特に換気の悪い狭い場所では、菌が長く空気中に留まるため感染のリスクは高くなります。学校のように、若者が長時間同じ空間で過ごす場所では、集団感染が起こりやすくなります。食器等の同じ物を使うなどで感染することはありません。

## <どうやって調べるの？>

- ・胸部エックス線検査や CT 検査

まずエックス線検査を行い、疑わしい場合は CT スキャンなどの精密検査を行います。

- ・ツベルクリン反応検査

ツベルクリン液を皮内注射し 48 時間後に皮膚反応を判定します。

- ・インターフェロンガンマ遊離試験 (IGRA)

最近では、ツベルクリン反応に代わって、より特異性の高い IGRA

が行われるようになってきました。採血で行う QFT-3G (クオンティフェロン) と T-SPOT (T スポット) が実施されています。

- ・喀痰検査

痰を採取して、塗抹検査、培養検査で排菌の有無を調べます。



## <どんな治療をするの？>

基本的には 6 ヶ月間薬を飲みます。排菌していない場合は、通院治療となる場合がありますが、入院や治療期間については、個人の病状や経過によって異なります。

薬は処方された通りに飲みましょう。勝手に止めたり、飲んだり飲まなかったりすると、結核菌が「耐性」を持ち、薬の効かない「耐性結核菌」が出来てしまいます。その場合、通常より沢山の薬を長い期間飲むなど治療が長引きます。

## <予防はどうすればいいの？>

免疫力が低下しないよう日頃から規則正しい生活や十分な睡眠を心がけ、栄養バランスの良い食事を摂りましょう。

### > [食生活について](#)

また、健康診断は必ず受けましょう！

本学では毎年 4 月に定期健康診断を実施しています。期間内は、胸部エックス線検査が無料です。必ず受診してください。毎年数人が結核の疑いや、その他の病気で病院を受診しています。結核は、早期発見・早期治療が重要な病気です。

### > [平成 28 年度定期健康診断の日程](#)

※皆さんはおそらく、生後 1 歳に至るまでの間に予防接種法に基づき、BCG という予防接種を受けています。これは結核の発病や重症化を防ぐワクチンで、乳幼児の結核予防に有効です。しかし、この予防効果は十～十数年というところで、成人に対する予防効果は高くないと言われています。



### **<結核と診断された場合>**

結核は、学校感染症の第2種に指定されています。「病状により医師が感染のおそれがないと認めるまで。」出席停止となりますので、速やかに所属学部へ連絡してください。詳細についてはこちらを参照してください。

#### **<学校感染症にかかった場合の取扱い**

もし、周囲の人に感染させた可能性がある場合は、当人の住所を管轄する保健所が、接触者に対する健診を行うなど、大規模な対策が必要となります。